episode.03

硫黄島の誇り“椿”

話し手　椿農家
折田（おりた） 恵美子（えみこ）さん（昭和18年12月9日生）

聞き手　三島村立 三島硫黄島学園
8年
9年

青い苔の椿山

椿は、誰がいつ栽培を始めたというわけではなくて、それこそこの硫黄島という島ができた頃から自生してるんじゃないかな。というのも硫黄岳がある関係で、亜硫酸ガスの影響で植物が育ちにくいんです。その中でも硫黄岳のガスに強い椿が生き残って、手入れすると実もなるし、拾うと油も取れるし、売ればお金にもなるという樹木の一つだと思います。しかも純度の高い良い椿油が取れます。

長崎の五島列島の椿本舗ってところの社長さんがわざわざお見えになって「硫黄島には青い苔の椿山があるってお聞きしたんだけど、どうしてこういう苔にするんですか」って質問されたことがありました。硫黄島では、山の中を綺麗に掃いて落ち葉をなくしておくと、自然に苔になっていく。掃除をし始めたらだんだん苔になって、苔の上に落ちた実は拾いやすくて歩留まりもいいし、ダメな実も見分けがつきやすい。地面を苔で覆うようにしようと思ってしたんじゃなくて、山を綺麗にしようとしたら苔になってしまった。その苔が良いよねってなって皆が苔にするようになり、今に至ります。

大変なことも多いけど、楽しんで

一度硫黄岳が噴火をしたことがあります。白い灰が降って椿の実が真っ白になってしまいました。今まで洗ったことがなかったのに洗ったら、椿の実に照りが出てピカピカ光って綺麗だったので、それから洗おうってことになったんだけど、実には乾燥が一番大事なので、一回洗ってからしっかりと乾燥させる。その時、穴の空いた実や軽くて実の入っていないのもを一つ一つ見極める。実の選別をするのは大事です。ちょっと大変ですが、一生懸命やります。いちばん多く採った年は夫婦で1トン400キロでした。大変でも楽しんでやっています。

椿の可能性を求めて

今は天ぷらを作る時の油をお店で買うじゃないですか。昔はね、その油を搾る機械を持っているお家が2軒あったので、そこに持っていって、自分の家で使う油を搾っていました。今は、島の椿油を使って椿うどんとか製品になってるでしょう。私は今、椿油のドレッシングの美味しいものを作って売り出せないかなと思って、試行錯誤しています。椿サミットという会議が毎年あって、私も一度参加させてもらったことがありますが、行く価値のある会議でした。また長崎県の五島椿祭りを見に行って学ばせてもらって、今度は硫黄島でも何か出来ないかって思って、若い人に投げかけています。

極楽浄土ってこんなところ

実は硫黄島は、転地療養には一番良いところでもあります。硫黄島の自然豊かで、綺麗な空気にふれると転地療法の効果があるみたいで…。私の一番上の娘が喘息を持っていたものですから、「喘息にもたぶん良いと思います」ってお医者様にすすめられて、硫黄島に帰って来ました。すると、メキメキと元気になりました。硫黄島っていうところは体も心も治してくれる島だなって思いました。それに、冬になると椿の花が苔の上に落ちて。そしたら主人が「極楽浄土ってこんなところを言うのかね」って。これで、また癒やされています。

聞き書きコラム

私たちの取り組み

三島硫黄島学園では、1年間を通して椿のことを学んでいます。今年は、椿の製品開発に携わっている硫黄島集落支援員の棚次紫寿代さんのご指導のもと、椿の油搾り体験を行いました。椿の殻を割り、出てきた中の実をつぶして蒸したものを熱々のまま、ガーゼに包んで絞るのです。両手いっぱいの実から、ほんの数ｃｃの油しか採れないことに驚きました。

冬を彩る赤い椿から、貴重な黄金色の油を頂きました。

三島硫黄島学園　８年　岩元　友梨花